



PHILHARMONIKER WIEN NAGOYA

フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋

創立10周年記念 第19回演奏会 **DAS 19.KONZERT**

LUDWIG VAN

ベートーヴェン・ツィクルスVI

BEETHOVEN ZYKLUS VI

Fantasie für klavier, Chor und Orchester c-Moll, Op.80
Symphonie Nr.9, d-Moll, Op.125

2023. **12/10** (日)

[開演]13:30 [開場]12:45

愛知県芸術劇場コンサートホール

全席自由 2,000円

未就学のお子様のご入場はご遠慮いただいております。

L.v. ベートーヴェン

合唱幻想曲 ハ短調 作品80

交響曲第9番 二短調 作品125 《合唱》

指揮 **茂木 大輔** (元NHK交響楽団首席オーボエ奏者)

独唱：川島 幸子(ソプラノ) 三輪 陽子(メゾ・ソプラノ) 大久保 亮(テノール) 伊藤 貴之(バス)

飯倉 敬泰子(ソプラノ) 舟倉 悠利(ソプラノ) 田中 祐衣(アルト) 笠木 厚憲(テノール) 岩田 健貴(テノール) 大倉 一将(バス)

合唱：名古屋市民コーラス ピアノ独奏：児玉 真子

【主催】フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋／公益財団法人 日本交響楽振興財団

【後援】愛知県教育委員会／名古屋市／名古屋市教育委員会／中日新聞社

【前売りチケット】藝文プレイガイド：TEL.052-972-0430／Pコード：249185

【お問い合わせ】PWN広報 TEL.080-4096-1842／Mail gruess_gott_PWN@yahoo.co.jp



競輪の補助事業

この演奏会は、競輪の補助を受けて開催します。
<https://jka-cycle.jp>

フィルハーモニー・ウィーン・名古屋

第19回 演奏会

～ベートーヴェン・ツィクルスⅥ 最終章～

当団は 2011 年に創設。独特の外観や構造、そして音色を持つ（しかし演奏至難な）ウィーン・スタイルの楽器～玉葱型ネックが特徴のウィンナ・オーボエ、ボーゲンとウィンナ・ヴァルヴといった独特の構造のウィンナ・ホルン、山羊皮ヘッドで手回しチューニングのウィンナ・ティンパニ、古楽器の運指を残すウィーン・アカデミー式クラリネットなどを揃え、我々が敬愛し、世界最高峰ともされるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の響きを追求しているオーケストラです。

2017 年に開始したベートーヴェン・ツィクルスがよいよ完結します。掉尾を飾るのはもちろん「第九」。第九の前身ともされる異色作「合唱幻想曲」とあわせお送りします。コロナ等により順延すること 2 年半、5 回の演奏会を挟んだ満を持しての大団円を、指揮者茂木大輔氏と活躍著しい独唱・独奏陣、さらには名古屋の老舗合唱団、そしてご来場くださる満員のお客様と共に迎えたい、と切に願っています。



◆ 指揮 ◆ 茂木 大輔 Daisuke Mogi

ミュンヘン国立音楽大学大学院修了（オーボエ専攻）、1986 年からシュトゥットガルト・フィル第 1 オーボエ奏者を、1990 年より 30 年にわたり NHK 交響楽団首席オーボエ奏者を務める。N 響在団中の 2009 年より東京音楽大学・大学院にて 4 年間指揮を学び、2019 年 3 月 N 響退団を機に指揮者としての活動を本格的に開始した。指揮を広く一、故岩城宏之、故外山雄三の各氏に師事。これまでに仙台フィル、アンサンブル金沢、東京フィル、京都市響、日本センチュリー響、兵庫 PAC、広島響、九州響、琉球響などを指揮。二ノ宮知子「のだめカンタービレ」原作に取材協力、自ら企画・指揮する「生で聴く『のだめカンタービレ』の音楽会」は 100 回を超えて継続中。現在東京音楽大学指揮科助教。「交響録・N 響で出会った名指揮者たち」（音楽之友社）など多数の著書がある。

川島 幸子(ソプラノ) Sachiko Kawashima (Soprano)

東京音楽大学ピアノ科卒業後、ワイマール音楽大学大学院音楽科修了、ドイツ国家演劇家資格取得。第 12 回チャイコフスキー国際コンクール声楽部門セミファイナリスト、第 10 回ザンダナ国際オペラコンクール E. ザンダナ賞。オペラでは「魔笛」夜の女王、「後宮からの誘拐」コンスタンツェ、「ナクソスのアリアドネ」フェルビネッタ等、ソリストとしてオペラストラとの共演も多く、メディアでは BS プレミアム「クラシック倶楽部」、NHK-FM「ベストオブクラシック」に出演。12 年に「IR シュトラウスをドヴォルジャーク歌曲集」をリリース。愛知県立芸術大学准教授。



三輪 陽子(メゾ・ソプラノ) Yoko Miwa (Mezzo-Soprano)

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業、同大学院音楽研究科声楽専攻修了。第 5 回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣対象者国内オーディション最優秀賞と特別賞を受賞。平成 20 年度新進芸術家海外派遣制度在外研修員としてイタリアとオーストリアに留学。新国立劇場オペラ公演、同劇場の鑑賞教室に出演。モーツァルト、バッハ、ヴェルディなど数々の宗教曲のアルトソロを担当するほか、ベートーヴェン「交響曲第 9 番」やマーラー「嘆きの歌」、「復活」、「大地の歌」、「亡き子を偲ぶ歌」などのソリストとして活躍している。クロアチア、ウィーン、プラハ等の海外公演にも出演。二期会会員。



大久保 亮(テノール) Ryo Okubo (Tenor)

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学大学院首席修了。愛知祝祭祭典の楽劇「神々の黄昏」ジークフリート役、名古屋二期会創立 50 周年「魔笛」タミーノ役など数々のオペラに出演。また、パッハ「マタイ受難曲」、「ロハネ受難曲」、「クリスマス・オラトリオ」エヴァンゲリストのほか、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「交響曲第 9 番」、メンデルスゾーン「エリヤ」などにテノールソロで出演。リサイタルも定期的に開催し、シュペルベルト「美しい水車小屋の娘」、「冬の旅」、「白鳥の歌」を演奏している。



伊藤 貴之(バス) Takayuki Ito (Bass)

名古屋芸術大学首席卒業、同大学院修了。奨学金を得て渡伊ミラノで研鑽する。第 39 回イタリア声楽コンクール金賞など受賞歴多数。近年は新国立劇場開場 25 周年記念公演「アイダ」国王、日生劇場「メデア」クレオンテ、「セビリアの理髪師」バジリオ、藤原歌劇団公演「トスカ」アンジェロロテ役等で出演し、いずれも好評を博す。小澤征爾、秋山和彦、尾高忠明、チョン・ミョンフン、アルベルト・ゼッダ等著名な指揮者との共演も多く、その他に、ベートーヴェン「交響曲第 9 番」やヴェルディ「レクイエム」などのソリストとしても活躍している。平成 24 年度愛知県芸術文化選奨「文化新人賞」を受賞。藤原歌劇団員。



名古屋市民コーラス Nagoya Shimin Chorus

1950 年発足、本年度で創立 64 年となる合唱団。常任指揮者山本高栄先生のもとオーケストラ伴奏の大会唱曲に取り組んでいる。団員数は約 170 名で、幅広い年齢層と多様なキャリアを有する合唱愛好家が集い、自主的な団運営を行っている。今年 9 月には第 50 回定期演奏会で J.S. バッハの「ミサ曲 路加調」を演奏するなど定期開催の演奏会を軸とし、愛知県合唱連盟の一員として愛知県合唱祭や名古屋主催の「第九」公演などにも参加している。



児玉 真子(ピアノ) Mako Kodama (Piano)

岐阜県各務原市生まれ。名古屋市立有里高等学校、愛知県立芸術大学卒業。2020 年ドレスデン音楽大学ピアノ科修士課程修了と同時にライブアーツ演劇音楽大学にてフォルテピアノを始める。2021 年にハーグ王立音楽院に交換留学し、Bart van Oort と Petra Somlai の各氏のもとで更なる研鑽を積んでいる。これまでにピアノを井澤阿佐子、國井真美、上野崇美子、小坂圭太、北住洋、Pia Kaiser、フォルテピアノを Eckhart Kuper の各氏に師事。2017 年から毎年岐阜・名古屋でリサイタルを開催し、ライブアーツでのリサイタルやドレスデン・フィル管弦楽トリオとの共演も行った。



板倉 歌奈子(ソプラノ) Kanako Itakura (Soprano)



舟倉 悠利(ソプラノ) Yuri Funakura (Soprano)



田中 祐衣(アルト) Yui Tanaka (Alto)



笠本 厚家(テノール) Atsumori Kasagi (Tenor)



岩田 健登(テノール) Kenji Iwata (Tenor)



大倉 一将(バス) Kazumasa Osawa (Bass)

